

どうとくのひろば



本年度も道徳だより「どうとくのひろば」を発行します

新型コロナウイルスの長期に渡る感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻など、不安定な情勢が続いていますね。しかし、このような状況だからこそ、より命の大切さや人と関わることのできるありがたさを実感しているのではないのでしょうか。これまで当たり前で過ごしていた日々は、決して当たり前ではないということにも気付きました。自分や大切な人が元気で生きていることに感謝の気持ちを抱きながら、日々を過ごしていけると幸せな気持ちでいられそうですね。

この「どうとくのひろば」では、本校での道徳の授業の様子や子供たちの心が育まれた場面などを随時、お知らせしていきたいと思っています。各学年の授業の様子などをできるだけ掲載する予定です。また、道徳教育や道徳科についてのご質問・ご意見は、このおたよりの一番下にお書きいただき、切り取って担任までお寄せください。学校と家庭をつなぐ「どうとくのひろば」になればと考えています。

附属坂出小学校の道徳の授業で大切にしていること

毎年、第1号に掲載しておりますが、道徳教育で大切にしていることを改めてお知らせします。道徳教育は、子供たちが未来を切り拓き、よりよく生きていくための道徳性を養うことを目標としています。そのため、道徳科の授業では、次の四つを大切にしています。

- ・道徳的に大切なこと（正直、友情、謙虚さ、礼儀…）が分かる。
- ・自分のよさを実感したり、自分の課題を見つけたりする。（よさに気付くことが大切です！）
- ・友達と話し合うなどして、いろいろな考え方に出合ったり、物事をいろいろな角度から考えたりする。
- ・自分はこれからこうしていきたいという「自分の生き方」について深く考える。

そして、本校では特に「まわりの人たちと関わっていくときに大切なこと」を子供たちがしっかり考え、自分はまわりの人たちとどのように関わっていきたいかを深く考え、よりよく生きるために大切なことを考えられるようにすることを目指しています。

道徳科の評価について

子供たちの心の成長を数値によって評価するというのは適切ではありません。ですから、数値によって道徳科の成績をつけるという事は行いません。子供たちがノートに書いたことや発表したことなどを基にしながら、学期末にお渡ししている「学びのたより」に、子供たちの心の成長の様子を記述しています。そして、子供たちのよさや成長を認め、励ますようなメッセージを伝えます。道徳科の評価については、子供たちと共に保護者・教師が子供たちの成長を喜ぶことが大切です。

これからの社会は、変化が激しく、予測が困難な時代だと言われてはいますが、子供たちが豊かで柔軟な心をもって、適切な判断をしていけるよう、学校と保護者の皆様の温かいまなざしで、子供たちを見守ってあげたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

